

土の中からのメッセージ(11)

下呂石の話(その三)

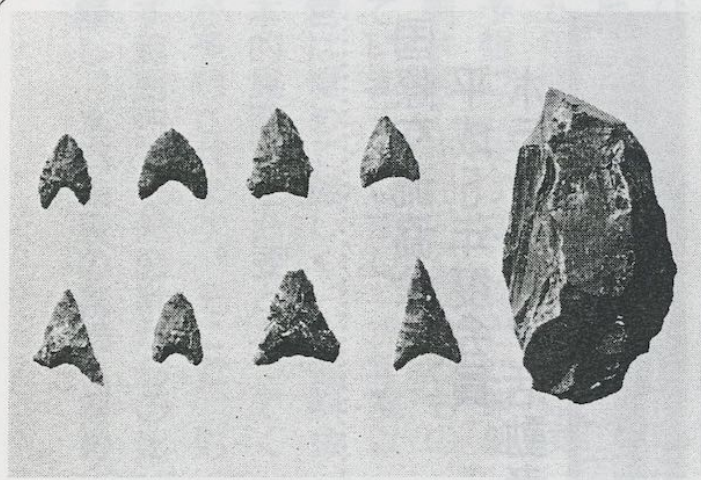
前回までは、下呂石の広がり
に果たす川の役割の大きさに
ついて述べてきました。

今回は、遺跡内で下呂石がど
のように利用されているか触れ
てみましょう。

石器の作り方は大きく、打ち
欠きによる「打製」と、磨きに
よる「磨製」に分けられます。

下呂石を素材とする石鏃せきやくやス
クレイパーなどの剥片はくへん石器は、
打製石器に含まれます。

まず初めに原石を打ち欠いて
剥片はくぺん(石器を作る素、金属製品
の地金に相当)を作ります。次



牧野小山遺跡出土の石鏃と角礫片

にその剥片の縁辺に鹿の角や硬
い木を押し当て、ゆっくり大き
な力を加えて削片さくへんを薄く剥ぎ取
りながら形を整えます。

市内の牧野小山遺跡の報告書
によれば、剥片石器の約二割が
下呂石製です。ところが、中津
川市の久須田遺跡くすだでは、剥片石
器の九割が下呂石製で、地域や
時期によって利用の仕方が違っ
ていたようです。

(博物館建設委員・齊藤基生)

今回は、次の方々から貴重な
資料を寄贈いただきました。あ
りがとうございました。

(平成五年一月分、二月分)

○古書一点

(福地澄夫さん/加茂野町)

○古時計など 四点

(高橋正美さん/本郷町)

○打製石斧うちせ 三十点

(上田吏朗さん/中富町)

○土雛つちびな 四点

(佐合隆さん/下米田町)

○馬用鞍など 三点

(小原勝さん/蜂屋町)

近い将来の博物館建設に向け
て情報や資料を集めています。
資料は見せていただくだけでも
結構ですので、市社会教育課
(内線362) まで情報をお寄
せください。